

あなたに薦める『この一冊』7月

『スマホ時代の哲学 失われた孤独をめぐる冒険』 谷川嘉浩[著] ディスカヴァー・トゥエンティワン

社会科教諭
松尾 優介
高校 3年1組
副担任



“皆さんの「やりたいこと」は何ですか？”

幼少期から今日まで、数えきれないほど尋ねられたことでしょう。もしかしたら、さっき尋ねられたばかりの人もいるかもしれません。

皆さんはこの問いに答えることはできますか？ 恐らく、「わからない」と答えた人が多いのではないのでしょうか。

なぜ、自分のことなのに自分の「やりたいこと」が分からないのでしょうか。

この本では次のように説明されています。ある時はiPadでYouTubeの動画を1.5倍速で流しながら、スマホでInstagramのストーリーを見つつ、ご飯を食べ、ラインの通知が来たら返事をする。またある時は友達と通話しつつ、スピーカーで音楽を流しながら数学の問題を解いている。一度に多くの作業(タスク)をこなす風景が、いまや当たり前になっています。私たちは朝起きてから寝る直前まで多くのタスクを並行してこなしている。絶え間なく外からの刺激を受けています。私たちの日常は、そういう意味で激務です。このような日常で、**私たちは1人になる機会、自分自身と対話する機会を失ってしまっています。その結果、自分の「やりたいこと」が分からなくなります。**

この本は著者自身が、自分自身と向き合うためのガイドブックのようなものだと言っています。ぜひ、全てのタスクを一旦中断して、じっくり読んでみてください。

著者『谷川 嘉浩(タニガワ ヨシヒロ)』豆知識

1990年生まれ。京都市在住の哲学者。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。博士(人間・環境学)。現在、京都市立芸術大学美術学部デザイン科講師。哲学者ではあるが、活動は哲学に限らない。個人的な資質や哲学的なスキルを横展開し、新たな知識や技能を身につけることで、メディア論や社会学といった他分野の研究やデザインの実技教育に携わるだけでなく、ビジネスとの協働も度々行ってきた。

出典：筑摩書房webサイト(<https://www.chikumashobo.co.jp/author/006991/>)

次の『一冊』も **考えて** みる？

図書館所蔵関連図書



・ やりたいことが見つからない君へ 坪田信貴[著] 小学館

120万部を超えるベストセラーになった、通称「ビリギャル」著者・坪田信貴氏が、今こそ10代に伝えたい、熱いメッセージ！ やりたいことがなく、やる気も出ないという人が今すぐトライすべき小さな一歩とは何か。それがのちのち人生にどれだけ大きなインパクトを与えることになるのかを、多彩なエピソードで語る。



・ 友だちってなんだろう？ 齋藤孝[著] 誠文堂新光社

ひとりになる勇氣、人とつながる力



だれとでも友だちであろうとしなくていい。楽しくて、笑顔になれる「気の合う人」とだけ、友だちになればいい。ただし、「気の合わない人」とも、いがみ合わず、傷つけあわずに共存していけるよう、人づきあいのスキルをみがこう。そして、このふたつの対人関係力だけではダメで、大切なのは、自分の世界をもち、「ひとりを楽しめる」力をもつこと。10代のうちに身につけておきたい「本当の人づきあい」とは？

★松尾 優介(マツオ ユウスケ)先生の紹介★

*担当科目・クラス

世界史探究(高3年1・2・3・5(文系)組)

地理探究(高3年1組、2組)

*星座 → ふたご座

*趣味

楽器(ベースとギター)の演奏、ライブをすること

*自分の中学・高校生活

中学はモンハンに明け暮れ、高校はライブばかりでした。

*本校生の印象 → 人懐っこい。

*感動した本

『人魚の眠る家』 東野圭吾[著] 幻冬舎

*読むことが望ましい本

『夜と霧』 ヴィクトール・E・フランク[著]

みすず書房

・ SNSの哲学 戸谷洋志[著]

創元社

あなたに考えてほしいのは、「SNSをどう使うべきか」といったマニュアル的なことではなく、SNSを使っているあなた自身が何者なのかという問いなのです。

承認・時間・言葉・偶然・連帯。SNSを使う私たちを描く新しい哲学の本。



編集後記:「人と一緒にいるときが、最も孤独なときだ」という言葉に共感を覚える人も多いのではないのでしょうか。これは紀元前(共和政ローマ期)を生きた政治家であり文筆家であり哲学者、キケロの言葉です。忙しい日々の中、「ひとりである/ひとりになる」ことの効用を、ちょっと立ち止まって考えてみませんか。